

6月の新設着工戸数、貸家が20カ月ぶりの減少



国土交通省が31日発表した6月の新設住宅着工戸数は前年同月に比べ1.7%増の8万7456戸で2カ月ぶりに増加した。ただ、**そのうち貸家は同2.6%減の3万5976戸と20カ月ぶりに減少に転じ、26都道県でマイナスとなった。**同省は「底堅い地域もあるが、貸家着工が一服したとの見方がある」(建設経済統計調査室)という。

貸家は相続税の節税対策やマイナス金利を背景に、昨年7月から11月は前年同月実績比2ケタ増の大きな伸びが続いた。しかし6月は岩手県、鳥取県、山口県で4割以上も減少。**国交省や金融庁は地方で、人口が減るのに貸家が増える状況を注視している。着工ペースが転機を迎えた可能性もある。**

新築着工戸数は貸家のほか持ち家も3.4%減の2万6037戸だったが、大規模案件が増えた分譲住宅が15.5%増の2万4976戸だった。中でもマンションは27.1%増だった。**1~6月期の新設住宅着工戸数は3期連続で増加した。**

情報提供：日本経済新聞

買取再販年間販売戸数ランキング 2017

リフォーム産業新聞社は、買取再販事業を手掛ける企業の2016年度の年間販売戸数を調べ、ランキングにまとめた。買取再販とは、中古住宅を買い取り、リフォームした後に販売する事業で、近年参入企業が相次いでいる。

カチタスが3451戸販売で4年連続1位

トップのカチタス(群馬県桐生市)は地方の戸建てを中心に3451戸を販売し、本紙の調査開始以来、4年連続のトップとなった。売上高は439億円と、売り上げでも国内1位。6位で年951戸販売するリブライス(愛知県名古屋市)はカチタスのグループ会社。両社合わせるとグループ合計で4402戸となり、2位以下に圧倒的な差をつけている。

2位にランクインしたのは2074戸のベストランド(東京都港区)。同社は平均40平米の中古マンションを買い取り、再生後に販売。平均販売価格は958万円と割安で、主に投資用賃貸住宅として売り出している。

3位はフジ住宅(大阪府岸和田市)で1516戸。同社は新築住宅のビルダーだが、中古住宅の再生販売にも積極的。ビルダーで最も買取再販事業を手掛ける企業だ。

順位	会社名	販売戸数(戸)	① 販売価格(億円)	② 販売戸数(戸)	③ 販売価格(万円)	④ 販売戸数(戸)	⑤ 販売価格(万円)	⑥ 販売戸数(戸)	⑦ 販売価格(万円)	⑧ 販売戸数(戸)
1位	カチタス 群馬県桐生市	3451	439.0	112	1300	7%	3699	150	441.0	新井 健司社長
2位	ベストランド 東京都港区	2074	198.0	40	958	99%	1975	144	-	重政 隆明社長
3位	フジ住宅 大阪府岸和田市	1516	295.5	79.18	2010	77%	1765	196	993.5	高橋 隆雄社長

情報提供：リフォーム産業新聞

4人家族が幸せに暮らすために必要な「家の広さ」は平均89.0平米

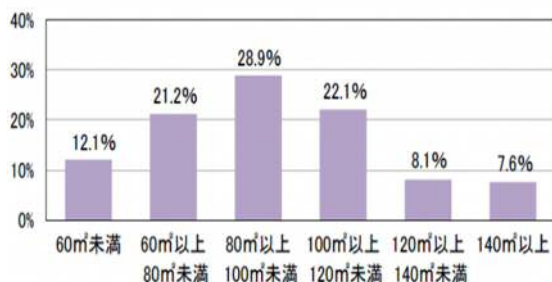
不動産情報サービスのアットホーム(東京都は、首都圏で夫婦と子供2人の4人家族で暮らす男女628名を対象に、「4人家族が幸せに暮らすために必要な住まいの条件」調査を実施した。

4人家族が幸せに暮らすために最低限必要だと思う「家の広さ(延床面積)」を聞いたところ、最も多かったのは「80m²以上100m²未満」で約3割。平均は89.0m²だった。また、最低限必要だと思う「リビングの広さ」は、「10畳以上15畳未満」が最も多く、半数近くにのぼった。平均は12.2畳だった。

同様に、「自宅から最寄り駅までの距離」の最低限の時間(最長時間)を聞いたところ、最も多かったのは「15分以上20分未満」、次いで「10分以上15分未満」だった。平均は18.4分だった。「通勤時間(片道)」の最低限の時間(最長時間)では、平均が57.1分、最も多いのは「60分以上80分未満」だった。

最低限必要だと思う「世帯年収」は、最も多い金額帯が「800万円台」、平均が882.5万円となった。一方、現在の年収は平均829.6万円、現状収入が足りていないと感じている人が多いことがうかがえた。

◇【家の広さ(延床面積)】分布



情報提供：新建ハウジング